

平成 29 年度 第 1 回 山科区民まちづくり会議

日時：平成 29 年 9 月 7 日（木）

午前 10 時～11 時 45 分

場所：山科区役所 大会議室

次 第

1 開 会

2 趣旨説明

「第 2 期山科区基本計画」の推進について

3 報 告

（１）山科区民まちづくり会議の進め方について

【平成 28 年度「区民アンケート」及び「客観指標」の調査結果】

（２）平成 29 年度山科区の主な重点取組について

4 議 論

「第 2 期山科区基本計画」の進ちょく・達成評価について

5 閉 会

<配付資料>

資料 1 「第 2 期山科区基本計画」の推進について

資料 2 山科区民まちづくり会議の進め方について

資料 3 平成 29 年度山科区の主な重点取組について

資料 4 施策進ちょく評価検証シート【平成 28 年度版】

参考 1 第 2 期山科区基本計画

参考 2 平成 28 年度山科区民まちづくり会議におけるグループ別討議まとめ

参考 3 京都市山科区民まちづくり会議要綱

「第2期山科区基本計画」の推進について

1 第2期山科区基本計画【平成23年3月策定】

京都市では、21世紀の京都のまちづくりの指針である「京都市基本構想(21世紀・京都のグランドビジョン)」【平成11年12月】の具体化を図るため、行政区ごとに、区民と行政が目標を共有し、区の個性を生かした魅力あふれる地域づくりを推進するための指針として、地域別計画(区基本計画)を策定している。

山科区では、第1期計画(「山科区フロンティア計画」【13年度～22年度】)を受け継ぎ、平成23年3月に「第2期山科区基本計画」を策定・推進している。

<計画期間>

10年間(平成23年4月～平成33年3月)

<計画の構成>

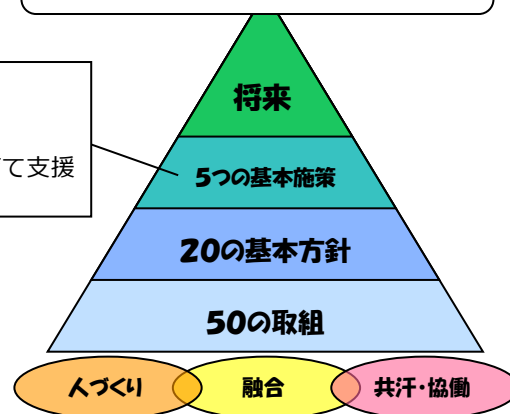
- ・ 5つの基本施策
- ・ 20の基本方針
- ・ 50の取組で構成

※ 全市的観点から取り組む主要な政策を示す「京都市基本計画」と相互に補完し合う地域別計画

- ① 環境
- ② まちの魅力・観光
- ③ 交通・都市基盤
- ④ 保健・福祉・子育て支援
- ⑤ 地域のつながり

<将来像>

「心豊かな 人と緑の“きずな”のまち 山科」



2 山科区民まちづくり会議【平成24年4月～】

(1) 設置目的【参考3 京都市山科区民まちづくり会議要綱参照】

「第2期基本計画」を、区民、地域団体、企業、事業者、大学及び行政等の「共汗・協働」により推進するとともに、専門的な見地及び区民の立場から幅広く意見を求めることを目的に設置・開催

(2) 役割

- ・ 同計画の進行管理、進ちょく・達成評価
- ・ 区民提案・共汗型まちづくり支援事業の推進に係る提言 等

(3) 委員構成【別紙参照】

委員長：小暮宣雄 京都橘大学現代ビジネス学部教授

委員数：33名(29年4月時点) ※オブザーバーとして行政機関職員が12名参加

任期：2年間(28年4月1日～30年3月31日)

※ 「山科区基本計画策定委員会」(第2期計画検討メンバー)を母体に、区内各種団体の代表等を加えて委員を構成

<参考> 御意見等を反映した具体的な取組例

アートロードなぎつじ、やましなGOGOカフェ、野菜の直売所のマップ作成 等

山科区民まちづくり会議 委員名簿

氏 名	所属等	出欠	代理
飯森 千夏	京都橘大学学生	×	
市川 正三	山科区農業団体連絡協議会	×	
岩崎 泰大	山科区自治連合会連絡協議会会長会	○	栗津 圭市
岩見 眞成	山科防犯協会	○	松崎 武司
植村 義弘	京都市私立幼稚園協会山科地区	×	
大河内清子	一般社団法人京都手をつなぐ育成会山科支部	○	
太田 益富	市民公募委員	○	
岡本 洋	山科の歴史を知る会	○	
影久 拓真	京都薬科大学学生	○	元村 友美
嶋本 弘文	山科区保育園保育所協議会	○	
川中 長治	一般社団法人山科経済同友会	○	
紀田 貢	山科医師会	×	
木下 文男	山科区身体障害者団体連合会	○	
栗本 帯子	山科区地域女性連合会	×	
○小暮 宣雄	京都橘大学現代ビジネス学部教授	○	
小山 好弘	N P O 法人おこしやす“やましな”協議会	○	
佐治 俊彦	山科保健協議会連合会	○	
澤田 清一	山科区自治連合会連絡協議会会長会	×	
	山科区交通安全対策協議会		
杉浦 紗生	京都橘大学学生	×	
相馬 映美	京都薬科大学学生	○	山下 真央
土田 絹枝	山科区老人クラブ連合会	×	
中嶋 恵二	山科区体育振興会連合会	×	
平野 一男	山科少年補導委員会	×	
前坂己美子	山科区民生児童委員会	○	
村井 琢哉	N P O 法人山科醍醐こどものひろば	○	
村田 哲子	清水焼団地協同組合	×	
森 正美	京都文教大学総合社会学部教授	×	
森田 武士	山科消防団	×	
柳生 昌保	山科地域防犯推進委員協議会	○	長谷川 喜一
藪下 貴則	京都市中学校 P T A 連絡協議会山科支部	○	
山本 陽子	京都市児童館学童連盟山科地区	×	
山本 稔	山科美化推進企業協議会	○	
吉川 彰	社会福祉法人京都市山科区社会福祉協議会	×	

○…座長

平成29年9月現在：計33名（50音順・敬称略・兼職含む。）

オブザーバー委員（区内行政関係職員）名簿

氏 名	所属等	出欠	代理
朝山 勝人	東部土木事務所	○	
池上 研二	東部農業振興センター	○	
井上 元次	山科消防署	○	
川本 悟	東部文化会館	○	
下岡 薫	京都市立中学校長会山科・醍醐支部	×	
高野 正義	上下水道局東部営業所	○	竹内 公二
中西 哲也	上下水道局みなみ下水道管路管理センター山科支所	×	
中村 國博	山科警察署	×	
奈須 健一	山科まち美化事務所	○	
仁科 周博	山科図書館	○	
山口 亘	京都市小学校長会山科支部	○	
宮川 知子	山科青少年活動センター	○	

事務局名簿

氏 名	所属等	出欠	代理
大西利加子	副区長（地域力推進室長・区民部長）	○	
中田 泰司	副区長（保健福祉センター健康福祉部長）	○	
小嶋 明	副区長（保健福祉センター子どもはぐくみ室長）	△	神田 信之
山下 貴史	地域力推進室 総務・防災課長	○	
人見早知子	地域力推進室 まちづくり推進課長	○	

平成29年度 第1回山科区民まちづくり会議委員 グループ名簿

グループⅠ [環境]

【五十音順・敬称略】

氏名	所属等	代理
岩見 眞成	山科防犯協会	松崎 武司
柳生 昌保	山科地域防犯推進委員協議会	長谷川 喜一
山本 稔	山科美化推進企業協議会	
池上 研二	東部農業振興センター	
奈須 健一	山科まち美化事務所	
山下 貴史	山科区役所地域力推進室 総務・防災課長	
谷 亮治	まちづくりアドバイザー	

グループⅡ [魅力・観光]

氏名	所属等	代理
岡本 洋	山科の歴史を知る会	
影久 拓真	京都薬科大学	元村 友美
川中 長治	山科経済同友会	
小山 好弘	NPO法人おこしやす“やましな”協議会	
橋間 望	山科区役所地域力推進室	
山本 一貴	まちづくりアドバイザー	

グループⅢ [交通・都市基盤]

氏名	所属等	代理
木下 文男	山科区身体障害者団体連合会	
太田 益富	公募委員	
相馬 映美	京都薬科大学	
朝山 勝人	東部土木事務所	
高野 正義	上下水道局東部営業所	
大西 利加子	山科区役所副区長(地域力推進室長・区民部長)	
松井 朋子	まちづくりアドバイザー	

グループⅣ-①[子育て・青少年]

氏名	所属等	代理
嶋本 弘文	山科区保育園保育所協議会	
宮川 知子	山科青少年活動センター	
村井 琢哉	NPO法人山科醍醐こどものひろば	
藪下 貴則	京都市中学校PTA連絡協議会山科支部	
山口 亘	京都市小学校長会山科支部	
小嶋 明	山科区役所副区長(保健福祉センター子どもはぐくみ室長)	神田子どもはぐくみ課長
田尾 純子	まちづくりアドバイザー	

グループⅣ-②[障害・高齢・健康・人権]

氏名	所属等	代理
大河内 清子	社団法人京都手をつなぐ育成会	
小暮 宣雄	京都橘大学現代ビジネス学部教授【座長】	
佐治 俊彦	山科保健協議会連合会	
仁科 周博	山科図書館	
中田 泰司	山科区役所副区長(保健福祉センター健康福祉部長)	
天岡 昌代	まちづくりアドバイザー	

グループⅤ[地域とのつながり]

氏名	所属等	代理
岩崎 泰大	山科区自治連合会連絡協議会会長会	
前坂 己美子	山科区民生児童委員会	
井上 元次	山科消防署	
川本 悟	東部文化会館	
人見 早知子	地域力推進室 まちづくり推進課長	
佐藤 友一	まちづくりアドバイザー	

<まちづくりアドバイザー>

氏名	プロフィール
天岡 昌代	同志社女子大学大学院文学研究科修了 専門は日本史。地域の歴史文化を活かしたまちづくりが専門
佐藤 友一	京都大学大学院修了。住民参加型まちづくりの研究と実践を行い、京都市景観・まちづくりセンター勤務等を経て現職。地域コミュニティの再生が専門
田尾 純子	関西学院大学社会学部卒業後、京都市内の青少年活動センターに11年間勤務 ワークショップやグループワーク、カウンセリングを通した青少年育成が専門
谷 亮治	立命館大学大学院社会学研究科修了、博士(社会学)。住民参加のまちづくりを研究する傍ら、まちづくりNPO法人に勤務。参与観察手法に基づく支援が専門
松井 朋子	京都教育大学大学院修了。京都府の協働コーディネーター職などを経て現職。 NPO法人、地域活動団体の支援と民間・行政間のコーディネートが専門
山本 一貴	神戸大学大学院修了。同大学研究員、地域公共人材開発機構を経て現職。博士(工学)。 専門は近代建築史、建築論、地域資源の評価・活用方法の開発支援

山科区民まちづくり会議の進め方について

1 平成 27 年度までの取組

区基本計画に掲げる「50 の取組」ごとに、その達成度について、当会議委員の主観に基づく 4 段階評価を実施

⇒ 上記方法については、委員から 「委員だけで判断するのではなく、無作為に区民を抽出して生の声を聞いてはどうか」、「誰が評価しても適正に評価できる客観的な指標や数値目標を設定してはどうか」といった指摘があった。

2 平成 28 年度の取組（評価方法の見直し）

【第 1 回会議】 区民アンケート及び客観指標の案についてグループ討議

⇒ 区民アンケート実施（10 月 4 日～10 月 21 日）、客観指標の調査

【第 2 回会議】 区民アンケート及び客観指標の結果等を踏まえ、計画の進ちょく・達成評価、平成 29 年度の具体的な実施事業等についてグループ討議

＜区民アンケート（平成 28 年度）＞

- 調査対象：18 歳以上の山科区民 3,000 人 ※29 年度以降は 2,000 人を対象
（住民基本台帳（平成 28 年 9 月 1 日現在、外国人データを含む）から無作為抽出）
- 調査期間：平成 28 年 10 月 4 日（火）～21 日（金）
有効回答数：971（回収率：32.4%）

＜客観指標＞

50 の取組に対応した 87 の指標を設定（※）

※ 原則 1 取組に対し 1 つ設定。取組の性質上、設定しなかったものもあり

3 平成 29 年度以降の取組

① 「区民アンケート」及び「客観指標」の取りまとめ

② 第 1 回会議（本日）

「区民アンケート」及び「客観指標」（ともに 28 年度実績）の結果等を踏まえ、5 つの基本施策ごとに分かれてグループ討議

＜議論テーマ＞

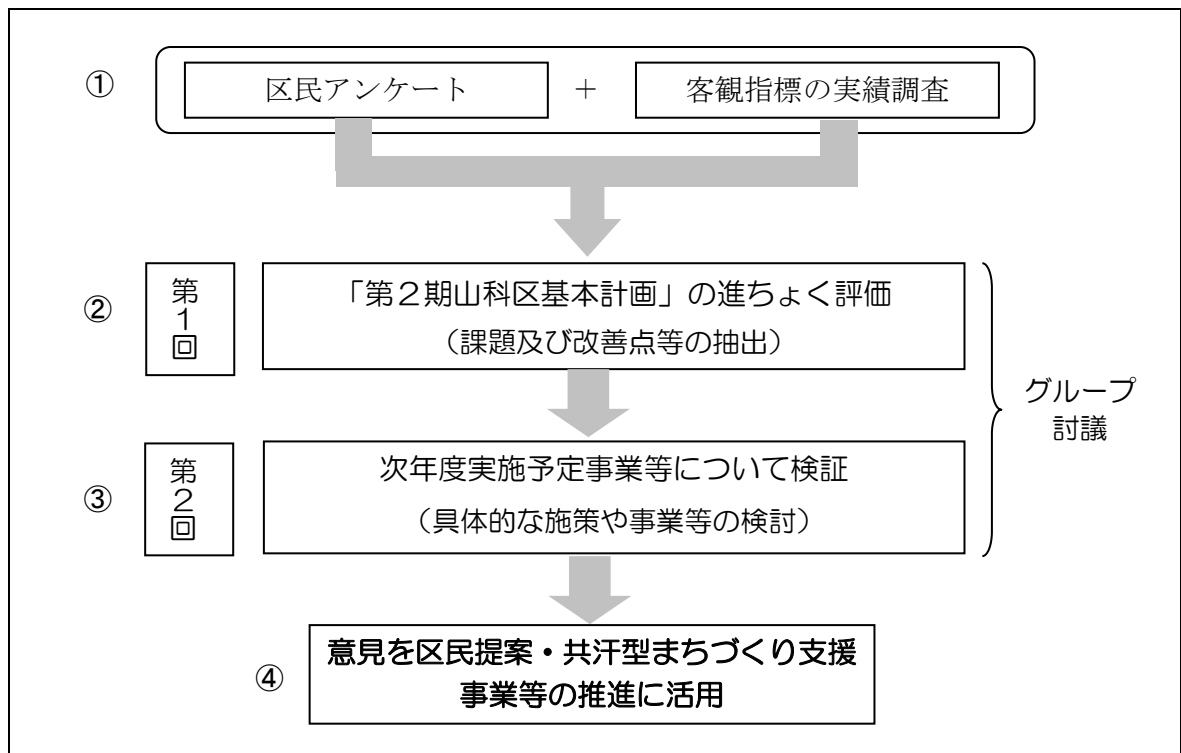
- ・ 「第 2 期山科区基本計画」の進ちょく・達成評価
- ・ 同計画実現に向けた課題及び改善点等の抽出

③ 第 2 回会議（10 月 17 日）

第 1 回会議を踏まえ、次年度又は将来的に取り組むべき施策・事業等を検討

④ 意見を区基本計画の推進に資する事業等に活用

<平成 29 年度以降の取組フロー>



平成 28 年度区民アンケート 結果のあらまし

※特徴的な結果が表れた質問を抽出しています。

① 基本施策 1（環境を守り継ぐ）について

＜自然環境，環境保全＞

問 1 山科区は，街路樹や公園・緑地，水辺空間など自然環境が豊かである。

問 2 山科区では，ごみの減量，分別収集など，環境に優しい取組が進んでいる。

(傾向)

両質問とも，肯定的な回答が約 6 割を占め，自然環境の豊かさや，ごみの減量など，環境に優しい取組に対する区民の評価が高かった。

② 基本施策 2（まちの魅力・観光を磨く）について

＜まちの魅力＞

問 7 山科区では，いろいろなひとが，山科のまちに親しみ，まちと暮らしを十分に楽しんでいる。

問 10 山科のまちの魅力を高めるために，必要なことは何だと思いませんか。
(複数回答可)

(傾向)

- ・ 問 7 は，肯定的な回答が約 4 割と，否定的な回答（約 2 割）を上回っており，多くの区民が，山科区を「住みやすいまち」と評価していることが分かった。
- ・ 問 10 は，「観光資源の掘り起こしなど，観光振興の取組」との回答が最も多かった。

＜文化・芸術活動，生涯学習＞

問 11 山科区では，気軽に文化・芸術活動を行ったり鑑賞したりすることができる。

問 13 山科区は，幅広い世代が気軽に学ぶことができる機会や施設が充実している。

(傾向)

両質問とも，肯定的な回答は約 2 割に留まる一方で，否定的な回答が 3 割を超えており，文化・芸術活動や，生涯学習に関する更なる取組が必要と考えられる。

③ 基本施策 3（交通・都市基盤を強化する）について

＜交通安全＞

問 14 山科区では，違法駐車や放置自転車が少なく，交通マナーがきちりと守られている。

(傾向)

約半数の人が，「交通マナーが守られていない」と回答しており，違法駐車や放置自転車の改善など，一層の交通マナー向上に取り組む必要がある。

<公共交通整備>

問16 山科区は、バス・地下鉄などの公共交通機関が整い、自家用車に頼らない移動が便利である。

(傾向)

3割以上の人が、公共交通の利便性に否定的な回答をしており、肯定的な回答は、約4割に留まった。

(4) 基本施策4（保健・福祉子育て支援を充実させる）について

<子育て>

問19 山科区では、子育て家庭のニーズに対応した保育サービスや相談機能が充実している。

問21 山科区を子育てしやすいまちにするために必要なことは何だと思いますか。
(複数回答可)

(傾向)

子育て支援の取組に関する質問では、肯定的な回答と否定的な回答が拮抗していた。また、必要な支援策としては、「子育て中でも働きやすい就業環境の整備」との回答が最も多かった。

<学校教育>

問22 山科区では、学校と家庭・地域が一体となって子どもたちを育てている。

(傾向)

肯定的な回答が4割以上と、否定的な回答（約1割）を大きく上回っており、学校と家庭、地域が一体となり、子どもたちを育てていることが高く評価されている。

(5) 基本施策5（地域のつながりを強める）について

<地域コミュニティ>

問32 山科区では、町内会や自治会等の地域活動が活発である。

(傾向)

肯定的な回答が5割以上にのぼる一方で、否定的な回答は約1割に留まっており、地域コミュニティが機能しているとの区民の実感が高かった。

<安心・安全>

問36 山科区は、犯罪や事故が少なく、安心して暮らせるまちである。

(傾向)

体感治安に関しては、否定的な回答が半数近くあり、「平成28年中の人口当たり刑法犯認知件数（犯罪数）」が11行政区中で2番目に少ないという客観的事実と大きなギャップがあることが分かった。

平成 29 年度山科区の主な重点取組について

※予算については、「区民提案・共汗型まちづくり支援事業」の予算額のみを掲載

基本施策 1 環境を守り継ぐ

環境先進区として、各学区自治連合会を中心として区民参加を一層推進します。

(1) 山科区 2 万人まち美化作戦の実施【担当：地域力推進室】 【共汗型事業：予算 270 千円】

散乱ごみのない美しいまちづくりを推進するため、約 2 万人の区民の参加を目標に、学区内の一斉清掃、門掃き、違反広告物の撤去に取り組みます。

(2) 笑顔と花いっぱいプロジェクトの実施【担当：地域力推進室】

区民との協働により、区内の主な幹線道路の歩道上にプランターを設置し、四季折々の花を植え、花と緑あふれる美しいまちを築くことにより、犯罪に強いまちの実現を目指します。

(3) 「エコ学区」ステップアップ事業【担当：地域力推進室、環境政策局】

3 年間の支援終了学区（137 学区）及びモデル学区（26 学区：うち山科区は全 13 学区）を対象に、さらに活発なエコ活動が行えるよう、「京エコライフプログラム（地域性を活かした学区独自のエコ活動を支援する公募型事業）」や省エネナビ（電気消費量計測機器）の貸出しによる「DO YOU KYOTO? クレジット認証制度」、「地域の担い手セミナー（3 回開催）」等、学区の状況に応じた多彩なプログラムにより支援します。

基本施策 2 まちの魅力・観光を磨く

地域の各種団体や経済界、大学等と連携し、山科のまちの魅力資源を磨き高めて、区内外への総合的な発信を図っていきます。

(1) 山科区公式アプリ「やましなプラス +」の運用【担当：地域力推進室】

山科区に在住、在勤・在学の方を対象としたアプリ「やましなプラス +」を活用し、自治連合会をはじめとする地域の各種団体、NPO、サークル等と協働し、魅力的な地域情報を発信するとともに、区民の皆様にとって便利で有益なアプリとなる仕組みを構築します。

(2) 子ども文化・芸術体験事業の実施【担当：地域力推進室、子どもはぐくみ室】

子どもたちを対象に、クラシック音楽や伝統芸能、歴史などの文化・芸術を身近に感じることが出来るワークショップ等を実施します。

(3) 山科検定の実施【担当：地域力推進室】

一般社団法人山科経済同友会との協働により、山科の歴史、文化、産業等への理解を深め、山科への愛着を一層醸成するとともに、山科の魅力を、未来を担う若い世代へ継承するための検定を実施します。

(4) ふれあい“やましな”区民ふれあい文化祭の実施【担当：地域力推進室】 【共汗型事業：予算 2,000 千円】

地域文化の振興と育成を図り、区民相互の交流と連帯を深めることを目的に、文化・芸術活動や芸能活動の発表の場として、「区民ギャラリー」や「芸能フェア」を実施します。

(5) ファムトリップ（旅行商品企画担当向け視察旅行）の実施【担当：地域力推進室】

NPO 法人おこしやす“やましな”協議会と連携し、区内に存在する四季折々の魅力的な観光資源を生かし、旅行商品企画担当者へ余すことなく伝えるため、行程や季節を変えて視察旅行を企画・実施します。

基本施策 3 交通・都市基盤を強化する

道路・交通環境の利便性と快適性を向上させながら、災害に強く、都市環境と住環境の調和したまちをつくっていきます。

（１）山科区の交通問題の改善に向けた取組【担当：地域力推進室，都市計画局，交通局】

「山科区公共交通利用促進協議会」において、交通事業者（京阪バス株式会社）などと連携しつつ、バス待ち環境の改善を実現するとともに、モビリティ・マネジメントによる公共交通の利用促進と利便性向上を図ります。

（２）山科ならではの地域力・知恵を生かした空き家対策の推進【担当：地域力推進室】

山科区内にある約１万戸の空き家解消を目指し、地域や不動産業界、専門家等との連携により、空き家の発生を未然に防ぐ取組も含めた、総合的な空き家対策を推進します。

（３）不良な生活環境を解消するための取組【担当：地域力推進室，健康長寿推進課，障害保健福祉課，生活福祉課，子どもはぐくみ室，保健福祉局，消防局】

生活衛生上、防災上又は防犯上に支障が生じるような不良な生活環境を解消するため、地域や関係機関等と連携し、要支援者に対して福祉的な支援等を行うとともに、必要に応じて指導等を行います。

基本施策 4 保健・福祉・子育て支援を充実させる

だれもがその人らしく、安心していきいきと暮らせる地域社会を目指します。

（１）やましなお誕生おめでとう事業の実施【担当：子どもはぐくみ室】【共汗型事業：予算 120 千円】

子育て家庭を地域ぐるみでサポートするため、地域の民生委員・児童委員及び主任児童委員による、乳児家庭への訪問、子育て情報のお届けや育児相談を実施します。

（２）やましな子育て情報発信事業の実施【担当：子どもはぐくみ室】【共汗型事業：予算 400 千円】

区内の関係機関が実施している子育て支援事業の情報や乳幼児期の子育てのポイントをまとめた情報誌「やましなっこおめでとうガイド」を作成し、未就園児を持つ家庭を中心に地域の子育て情報を発信します。

（３）やましなっこひろばの運営【担当：子どもはぐくみ室】【共汗型事業：予算 70 千円】

保育園や幼稚園に通っていない就学前の子どもとその保護者を対象に、地域子育て支援ステーションや主任児童委員等が公園へ出向き、遊びの提供や子育て相談を行うことで、子どもの健全育成を推進するとともに、地域の関係機関同士の顔の見える関係づくりを進めます。

（４）山科赤ちゃんフェアの開催【担当：地域力推進室，子どもはぐくみ室】

山科区保育園協議会と連携し、子育ての素晴らしさを実感していただくため、赤ちゃん和妈妈・パパやプレママ・プレパパに１日楽しんでいただける催しを開催します。

(5) 山科区健康寿命延伸プロジェクト【担当：健康長寿推進課】【共汗型事業：予算 480 千円】

○ やましな新聞屋さん見守りネットワーク事業の実施

山科区の強みである「地域力」によるネットワークに加え、新聞販売所によるネットワークを重層的に配備することにより区内の高齢者支援ネットワークの一層の充実・強化を図ります。

○ “心” の健康寿命延伸体験事業の実施

「清水焼&地産野菜料理」体験教室（じっちゃんとおく・わたしの夏休みプラン～清水焼と地野菜クッキング～）を開催します。

(6) 山科区フリースペースの設置・運営【担当：健康長寿推進課】【共汗型事業：予算 883 千円】

社会的に孤立する方をつくらなく、区民や地域福祉関係者との共汗・協働により、高齢者、子育て世帯、障害のある方などが、気軽に立ち寄れる「フリースペース」を区内に設置（平成 28 年度末 13 箇所を設置）し、地域社会の絆づくりの場とします。

(7) 健康づくりサポーター「キャット・ハンズ」とウォーキングの実施【担当：健康長寿推進課】

【共汗型事業：予算 387 千円】

地域の健康増進・生活習慣病対策について、保健福祉センターと共に考え、活力あるまちづくりを目指すボランティアである健康づくりサポーター「キャット・ハンズ」による、健康づくりを目的としたウォーキングを年 3 回実施します。

(8) 「やましなプラス +」を活用した健康ウォーキングの促進【担当：地域力推進室】

「やましなプラス +」のウォーキング機能を活用し、利用者の歩数に応じて「やましなポイント」（ポイントは電子マネー等と交換可能）を付与する健康ウォーキング事業を推進します。

基本施策 5 地域のつながりを強める

地域のつながりを強め、まちと暮らしの安心・安全を形成していきます。

(1) 世界一安心安全・おもてなしのまち京都市民ぐるみ推進運動【担当：地域力推進室，文化市民局】

安心安全に対する平成 28 年度から 5 年間（平成 28 年度～平成 32 年度）の取組の指針となる「山科区版運動プログラム」（平成 28 年 3 月策定）に基づき、登下校時の児童の見守り活動等、これまで各学区で行われていた取組を基本としつつ、新たに防犯カメラの大幅な増設や、笑顔と花いっぱいプロジェクト等に取り組み、京都市と京都府警察が相互に連携して、市民ぐるみで犯罪に強いまちづくりを推進することで“誰もが安心安全に、笑顔で楽しく暮らし、観光できる、やさしさあふれるおもてなしのまち”を目指します。

(2) 山科“きずな”支援事業【担当：地域力推進室】 【提案型支援事業：予算 9,545 千円】

区民、地域団体、NPO 法人、大学等が自発的、主体的に行うまちづくり活動・事業を支援することにより、区民等との共汗・協働によるまちづくりを推進します。また、活動をより活発にするための講座や、活動の成果を広く発信し、活動団体間の交流を図る活動報告会を開催します

(3) やましな GOGO カフェの運営【担当：地域力推進室】 【共汗型事業：予算 907 千円】

山科に関心を持つ人が出会い、つながり、活動へのアイデアを育て、行動のきっかけを見つける場として、カフェを定期的に開催します。

また、区内の課題について、関係機関、学校、地域団体、市民活動支援団体等が集まり、それぞれの取組等を共有し、解決につなげる場として、テーマ別カフェを開催します。

（４）地域の防災力アッププロジェクト【担当：地域力推進室】 【共汗型事業：予算 388 千円】

地域及び関係機関と連携・協働し、防災・減災対策を引き続き推進するとともに、避難所運営マニュアルや防災行動マニュアル、土砂災害ハザードマップ等を基に、実践的な訓練等を実施し、地域の防災力の更なる向上を図ります。

また、平成 30 年度に初めて実施する「全区民参加型・超実践型」の防災訓練に向け、各学区等と協議を進めます。

（５）ふれあい“やましな”区民まつりの実施【担当：地域力推進室】 【共汗型事業：予算 3,645 千円】

子どもからお年寄りまで、幅広い区民が参加して相互に交流するとともに、地域の振興と活性化を図るため、ふれあい“やましな”区民まつりを実施します。また、模擬店でリユース食器等を使用するなど、環境にやさしいまつりになるよう努めます。

平成29年度 山科“きずな”支援事業 採択事業一覧

1 継続事業

(1) 一般 20団体

(単位：円)

番号	事業名	大学・団体名	事業概要	補助 予定額
1	第2回山科検定	一般社団法人 山科経済同友会	山科検定の目的である「山科の歴史、文化、産業等への理解を深め、区民の皆様の山科への愛着を一層醸成するとともに、山科の魅力を未来を担う若者や区内外の人々に発信する」ことを貫徹しながら、地域団体の方の御協力も仰ぎ、継続することで、更なる事業の発展を目指す。	300,000
2	『山科歴史街道・史跡巡り』 (第3年次)	ふるさとの良さを活かした まちづくりを進める会	区民が自らの生活の場である山科の歩いて調べ、学ぶことを通して、山科に愛着を持ち、相互の豊かなコミュニケーションの形成を目的としている。 今年度は第3年次として、8コース(全8回)を実施する。	300,000
3	第8回山科バルフェスタ	山科商店会	地域との絆を深め、他の団体やイベントなどとの連携を図ることにより、商店会単体から山科駅前地域、山科区域全域へ、より広域での「地域一体」の活性化につなげるために山科バルフェスタを開催する。	300,000
4	やましな認知症サポート連絡会	やましな認知症サポート 連絡会 29年度代表： 高齢サポート山階	山科区内の介護保険事業所・医療機関・行政等の連携促進を図り、合わせて区民の認知症の理解を広げる活動を行うことにより、山科区内の認知症高齢者やその家族が安心して住み続けられる地域を構築する。	150,000
5	「やましな赤ちゃん・キッズ フェア」事業	山科区保育園協議会	少子化が進み中であって、若年層世代をはじめ広く地域の皆さんに、父親・母親になる喜びと子育ての素晴らしさを訴求する。加えて、この事業を通じて、子供を大切にする地域、社会を築くことを目的とする。	300,000
6	安祥寺中学校区 緊急時安否確認 かぎ預かり事業	安祥寺中学校区 緊急時かぎ預かり事業 実行委員会	ひとり暮らし及び高齢者のみの世帯の方が安心して暮らせる様に地域の見守り活動や福祉施設、民間サービス事業者などの連携・協働を推進し、地域の福祉力を高め、孤立死などの事故を予防することを目的に実施する。	150,000
7	無料学習塾	獅子の子学館	学習内容がわからなくて困っている児童生徒への学力支援を実施し、基礎学力の向上を目指し、無料学習塾を実施する。	125,000
8	山科まちかど音楽祭2017実施事業	山科まちかど音楽祭 実行委員会	商店街、学生と連携し、商店街に賑わいをもたらし、客足呼び込むと共に、地域の人たちの自己表現の場を創造し、地域のコミュニティづくりに貢献する。	300,000
9	きらきらボクシング	きらきらボクシング 実行委員会	不登校状態、不登校傾向にある児童を対象として、ボクシングを通じて汗を流し、仲間と過ごす時間の楽しさを味わってもらい、学校復帰や社会復帰につなげてもらうことを目的とする。	81,000
10	こども音楽体験&能楽入門 ワークショップ	こども音楽体験&能楽入門 ワークショップ実行委員会	山科区内の小中学生にクラシック音楽や日本の誇る伝統文化である能楽に気軽に触れてもらうことにより、芸術を愛する心を育むとともに豊かな情操を養うことを目的に実施する。	300,000

11	独り暮らし食事会「すみれ会」	山科健康友の会	山科地域のひとりぼっち高齢者・昼間独居の方に、月に1度食事会をすることで高齢者相互の交流をはかりながら、自分たちの思い出を話せる場を提供し、楽しい時間をすごせる一助になることをすすめる。	200,000
12	安朱こどもコンソーシアム	安朱学区自治連合会	学区内の安朱への思いの基である、安朱の自然、毘沙門、疏水等の歴史資源を、洛東高校、京都薬科大等の大学との交流を通して「安朱の更なる強み」に変えて「新しい安朱のまちづくり」を始める。	121,000
13	笑人カフェどんげね？ ～子ども食堂～	「笑人 Wa-Road」	地域での共生を考え、困りをかかえている人や小さいお子さんのいる家庭、独居老人の方々、個食・孤食を余儀なくされている子どもたちが気軽にきて、飲食・学習・趣味・お喋りなどを楽しめる温かな居場所を作る。	187,100
14	みささぎの森を生かしたみんなの遊び場を作ろう！	NPO法人ビオトープネットワーク京都	みささぎの森の樹木に間伐木・竹、蔓などを使い野鳥の観察小屋や遊具を作り、子供だけでなく大人も楽しめるような空間を作る。 この活動を通して、自然や環境に興味を持ってもらい大切にすることを学んでもらう。	160,000
15	子育て支援コンサート 「～“ほんもの”の音楽を身近に～」	シアターアカンパニ運営委員会	小さい子どもを育てる保護者は、気後れしたりして、なかなか質の高い生演奏を聴く機会に恵まれない。そうした皆さんにクラシックとジャズのプロの演奏を提供し、気軽に身近に楽しんでいただくことで、参加者同士が会話を楽しむことができ、一時の間、保育教諭に子どもを預けて子育て相談サービスを利用していただく。	126,520
16	高齢者認知症予備軍のスマホ学習会・復習会・支援学習及研修会	特定非営利活動法人山科未来地図E-wa（い～わ）！！山科	スマホを活用して、シニア世代の居場所づくりと地域コミュニティに取り組む活動として、高齢者認知症進行防止と日常生活自立支援を目的とする。	280,000
17	府産材を利用したフリースペース活用による地域の絆強化プロジェクト	次世代京町家の会	府産材を用いた創作教室開催及び子ども達の遊べるフリースペースを提供することにより、地域住民との絆強化図る。	300,000
18	AWR 介護生活安定・介護離職防止事業	AWR「もうひとつの働き方・もうひとつの生き方」協議会	やむを得ない介護離職によって、生活を脅かされ、路上生活等を強いられるケースが増えている。これらを防止するための仕事と介護が両立が可能な仕組みを実現するために、勉強会やセミナーを実施する。	103,300
19	保健・福祉・子育て支援の充実につながる事業	きママつず	子育ての孤立化を防ぎ、楽しめる環境をつくるため、地域のおすすめスポット等を掲載した山科ママならではの冊子を作成するとともに、気軽に参加できるイベントを企画する。	100,045
20	地域のつながりを強める事業 (兼、暮らしの安心・安全を高める事業)	特定非営利活動法人セントラルライフ京都	老人、特に独居老人の認知症は社会的課題となっており、現在必要とされる成年後見制度はまだまだ高齢者には理解普及されているとは言えない状況である。そこで地域自治会や地域団体と協力してわかりやすい成年後見制度の普及活動を行い、同時に地域で触れ合う機会を設けて、より高齢者の不安を取り除くことを目的とする。	69,500
計				3,953,465

(2) 小規模事業 2団体

(単位：円)

番号	事業名	大学・団体名	事業概要	補助 予定額
1	『ふるさとを語り合う集い』 (第2年次)	音羽小学校学校運営協議会	音羽小学校「ふるさとルーム」を活用した「ふるさとを語り合う集い」(6回)を実施し、郷土への理解を図ると共に、ふるさとルームを児童の学習の場だけでなく、地域住民の学習・交流の場として活用するきっかけにしていく。	100,000
2	子ども達に山科の歴史や魅力を伝える資料作成(第2年次)	ふるさとの良さを活かしたまちづくりを進める会	これまでふるさとの会で作成した「山科お地蔵さん巡り」や「京 山科のお地蔵さん」をはじめ、「ふるさと講演会」や「歴史ウォーク」などで蓄積してきた資料や調査・研究の成果を生かし、子供向けに資料を作成し、次代の山科を担う子供たちに、山科の歴史や魅力を伝える。	100,000
計				200,000

(3) 大学等 3団体

(単位：円)

番号	事業名	大学・団体名	事業概要	補助 予定額
1	パパとママのこころ育て広場	京都橘大学 心理臨床センター	乳幼児期の子育てを支援する。特に、発達の遅れが若干見られるケースや、親子関係構築に躓きのあるケースに対して、子供の発達と保護者の養育との両面からサポートするため、年間8回の子育て支援プログラムを実施する。	80,000
2	まちなか交流ものづくり ー町の育みプロジェクト' 17ー	京都工芸繊維大学 佐々木まちづくり研究室	ものづくりという活動しやすい内容を通じて、地域の高齢者・子供が交流できる環境を作り出し、まち全体を育むネットワークを生み出す。	250,000
3	腰痛予防教室	京都橘大学 理学療法学科 ヘルスプロモーションコース	山科区民に対し腰痛に関する基礎知識の提供及び腰痛予防体操を紹介し、腰痛に対するセルフマネジメント能力を高めることを目的とする。これにより、腰痛による医療機関への受診率が下がることを期待する。	256,400
計				586,400

2 新規事業

(1) 一般 7 団体

(単位：円)

番号	事業名	大学・団体名	事業概要	補助 予定額
1	紙芝居づくり講習会を開催し、山科の伝承や文化に関わる作品を区内小中高校、及び山科図書館に寄贈する事業	やましなを語りつく会	紙芝居づくりの講習会を開催する。会員だけではなく、広く参加者を公募することで、より多くの方々の手で良質な紙芝居を寄贈し、子供たちが地域文化を支える一助とする。	300,000
2	「山科かるた」であそび、この町の良さを知ろう ～共に集まり、楽しみ、地域を深く知る場を足掛かりとして～	特定非営利活動法人 山科醍醐こどものひろば	「山科かるた」で遊べる冊子を小学生に配布し、学区を超えた楽しい集まりとして、「山科かるた大会」を開催し、遊びながら地域に関心を持つ機会を作るとともに、希望する小学校で「山科かるた会」を開催する。	210,000
3	毘沙門市 ～最澄さん～	毘沙門市実行委員会	山科北部安朱の観光、福祉活動や大学生と地域のつながりを毘沙門市を通じて事業を実施することで、それぞれの活動をしている人々の交流を図る。	267,750
4	山科 森の見世棚市	山科 森の見世棚市 運営委員会	京都山科を全国的にPRするための新しいコンテンツとしてのイベント運営を実施し、京焼、清水焼を身近に感じてもらい、生活に取り入れてもらおうきっかけづくりにつなげる。	218,750
5	“山科じかん” 読者10,000人 ～シニアも子どもも歌い上げろ！ のどじまんThe YAMASHINA!～	山科元気☆プロジェクト	子どもからシニアの方までの地域交流と居場所作り、ワクワクした毎日を送る事ができるような健康寿命の延伸、また、各（個人）商店・地域の方々同市の関係作り、知り合い作りを通しての地域の触れ合いと活性化を目的に開催する。	258,800
6	あなたが主役！allonlyOne (地域コミュニティ活性化計画)	小野学区自治連合会	世代を超えて、地域住民、事業者が一緒になって行える、サークルやスポーツ活動を通じコミュニティの活性化につなげることで、地域に対して溶け込みやすくなるきっかけづくりをする。	300,000
7	田村麻呂ヒーロー見参 in 山科おやじフェスタ	山科おやじの会連絡会	「わが子の父親から地域のおやじへ」をスローガンに活動しているおやじの会を少しでも多くの区民に知ってもらい、何か活動したい父親の参加を促すとともに、山科から生まれたヒーローが多くの区民に愛されるように劇場型のイベントを実施し、家族のふれあいの場を作る。	300,000
計				1,855,300

(2) 小規模事業 2 団体

(単位：円)

番号	事業名	大学・団体名	事業概要	補助予定額
1	防災訓練 レクリエーション化により参加者増大を図る化	竹鼻西部町内会	町内会の加入率の低下，高齢化が進み，町内会の活動が無形化していく傾向にあり，防災訓練をきっかけとして，いざという時の助けあいの必要性を認識していただくことで，近隣住民の相互交流を図り，地域の活性化につなげていく。	100,000
2	あの町この町うたう町	西野音楽サークル	毎月 1 回地域の高齢者を中心に唱歌，流行歌等を斉唱して楽しむことで，地域住民の交流を深め，居場所づくり，生きがいを創生する。	31,500
計				131,500

(3) 大学等 1 団体

(単位：円)

番号	事業名	大学・団体名	事業概要	補助予定額
1	助けよう！大切ないのち さらなる救命率向上を目指して	京都橘大学 救急救命研究会 TURF	全ての区民が心肺蘇生と A E D に関する知識と技能を取得し，突然の心停止から救える命を救うことのできる安心・安全な社会を構築することを目指す。	300,000
計				300,000

※補助予定額 総計

7,026,665

平成 29 年度山科“きずな”支援事業（区民提案型支援事業）について

1 概 要

平成 29 年度の山科“きずな”支援事業については、第 1 次募集を実施し、36 の団体等から申請があり、「山科区“きずな”支援事業審査委員会」における審査を経て、35 件の対象事業を決定しました。

2 募集概要

(1) 募集期間

平成 29 年 4 月 3 日（月）～平成 29 年 5 月 26 日（金）

(2) 支援内容等

支援団体	支援対象	補助内容	
ア 地域団体等	地域団体，NPO 法人，グループ等が行うまちづくり活動や事業	【補助限度額】	
		総事業費 10 万円超	1 事業 30 万円
		総事業費 10 万円以下	1 事業 10 万円
		【交付率】1 年目 3／4 以内，2 年目以降 1／2 以内	
イ 大学等	大学等と区民との共汗・協働による事業や交流事業など	【補助期間】1 年	
		【補助限度額】1 事業 30 万円	
		【交付率】10／10 以内	
		【補助期間】1 年	

(3) 申請件数及び採択件数の内訳

部 門（6 部門）		採択件数	申請件数
継続案件		25 件	25 件
	地域団体枠	22 件	22 件
	① 一般事業枠	(20 件)	(20 件)
	② 小規模事業枠	(2 件)	(2 件)
	② 大学等枠	3 件	3 件
新規案件		10 件	11 件
	地域団体枠	9 件	10 件
	③ 一般事業枠	(7 件)	(8 件)
	④ 小規模事業枠	(2 件)	(2 件)
	⑥ 大学等枠	1 件	1 件
合 計		35 件	36 件

3 採択事業の概要

別紙一覧参照

第2期山科区基本計画

施策進ちよく評価 検証シート [平成28年度版]

資料4

基本施策 ①	環境を守り継ぐ	自然を守り，地球環境に配慮したライフスタイルを，ともにつくっていきます。
--------	---------	--------------------------------------

1 客観指標

番号	20の基本方針	50の取組	指標名【単位】	年度推移 (H28は算出可能なもののみ)						備考 (出典等)
				23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
1	うるおい・自然を大切に する	①まちの水・緑の充実	花いっぱいプロジェクトでのプランター設置数【個】	—	—	—	—	—	1,800	・緑被率＝緑地面積／敷地面積 ・対象：市街化区域内の緑(山科区)前 回調査(H17)時の緑被率:26% H23、H24はデータなし 清掃回数については、4月から12月の 実績 BOD(生物化学的酸素要求量):河川 の有機汚濁の代表的な指標(数値が 小さいほど、汚濁が少ない)、0.5が数 値の下限 市保全基準達成状況は、水域内の全 測定地点で75%水質値を満たしてい るか否かで評価(満たしていれば○、満 たしていなければ×) H28年度分は平成30年4月公表予定
			山科区フラワーロード推進事業花苗植数【個】	5,030	5,220	5,140	5,190	5,266	6,133	
			緑被率【%】	—	—	—	—	25	—	
		②公園・緑地等の整備と適切 な管理	公園愛護協力会による公園の清掃回数【回】	—	—	2,164	2,243	1,975	2,206	
		③自然環境の保全・回復	山科川におけるBOD(生物化学的酸素要求量)の75%水 質値【mg/L】	0.7	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5	
山科川における京都市環境保全基準の達成状況	○		○	○	○	○	○			
2	地球環境問題対策の ため行動する	①低炭素社会づくりによる地 球温暖化対策の推進	自動車保有台数(自家用乗用車及び軽自動車のみ)【台】	50,533	50,533	50,767	50,646	50,545	—	
			京都市住宅用太陽光発電システム助成件数【件】	117	179	142	130	85	55	
3	ごみを減らし、まちを きれいにする	①ごみの発生抑制と資源循環 型社会の構築	ごみの受入量【t】	(488,823)	(481,211)	(472,183)	(461,415)	(439,606)	(417,273)	全市の受入量 (山科区のためのデータなし) 全市の回収量 (山科区のためのデータなし) 全市の回収量 (山科区のためのデータなし) 全市の回収量 (山科区のためのデータなし) エコライフチャレンジ:各家庭で、子ど も達がマイバッグの持参などのエコライ フにチャレンジし、その結果を子ども版 環境家計簿「こどもエコライフチャレン ジ」に記入する授業
		②廃棄物対策の充実と環境美 化	使用済てんぷら油の回収量【L】	21,353	21,432	22,190	19,435	20,107	21,958	
			使用済乾電池の回収量【t】	(74)	(90)	(85)	(89)	(95)	(99)	
			2万人まち美化作戦の参加人数【人】	15,856	17,300	16,568	16,554	16,296	15,170	
			山科エコまちステーション及び山科まち美化事務所での清 掃用ゴミ袋の配布枚数【枚】	(18,810)	(25,580)	(18,900)	(18,981)	(20,860)	(29,499)	
4	環境について学ぶ	①環境学習の充実	ごみ減量エコバスツアーの参加者数【人】	102	125	330	315	329	259	
			小学校での環境学習(子どもエコライフチャレンジ)の時間 数【時間】	39	39	39	39	39	39	

2 区民の実感(平成28年度区民アンケート)

番号	設問	そう思う	どちらか というと そう思う	どちらとも いえない	どちらか というと そう思わない	そう思わない	無回答	備考
1	山科区は、街路樹や公園・緑地、水辺空間など自然環境が豊かである。	21.0% (204)	37.0% (359)	20.4% (198)	12.4% (120)	7.2% (70)	2.1% (20)	
2	山科区では、ごみの減量、分別収集など、環境に優しい取組が進んでいる。	20.1% (195)	39.2% (381)	26.2% (254)	7.7% (75)	4.8% (47)	2.0% (19)	
3	山科区は、散乱ごみが少なく、美しいまちである。	11.3% (110)	33.6% (326)	30.6% (297)	14.2% (138)	9.4% (91)	0.9% (9)	
4	山科区では、学校や地域において、環境について学ぶ機会が充実している。	5.6% (54)	18.3% (178)	44.4% (431)	12.9% (125)	7.9% (77)	10.9% (106)	

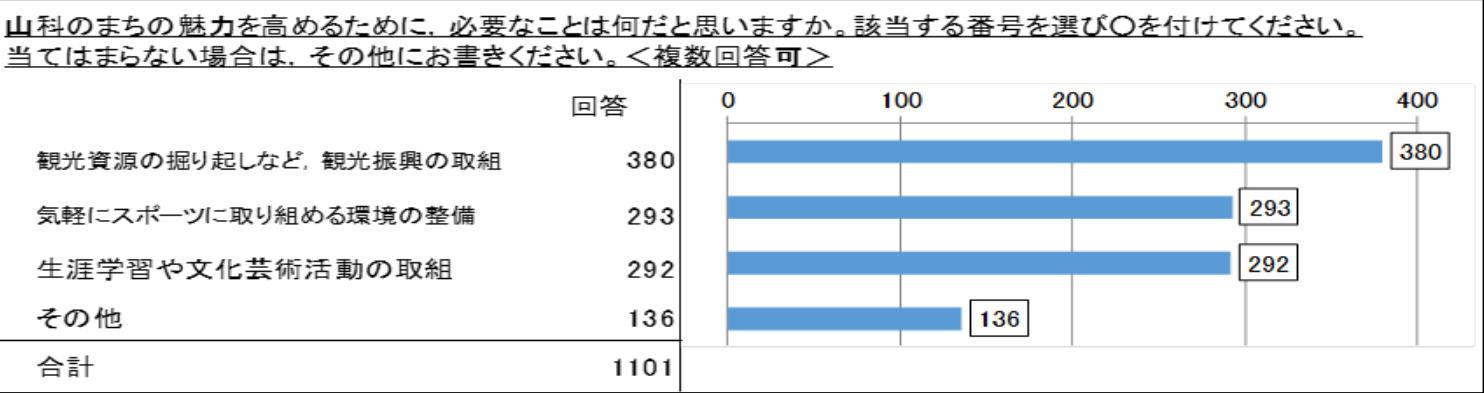
基本施策 ②－1	まちの魅力・観光を磨く (観光・伝統産業)	山科のまちの魅力資源を磨き高めて、区内外への総合的な発信を図っていきます。
----------	--------------------------	---------------------------------------

1 客観指標

番号	20の基本方針	50の取組	指標名【単位】	年度推移 (H28は算出可能なもののみ)						備考 (出典等)
				23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
1	山科の魅力・観光を育てる	①山科の魅力の発信	おこしやすやましな協議会HPのアクセス件数【件】	—	20,747	25,791	28,240	30,094	29,233	H23年度はデータなし
		②歴史資源等の保全・活用と新たな魅力づくり	おこしやすやましなマップ(簡易マップ)の配布枚数【枚】	14,000	18,720	12,090	20,700	5,550	10,300	・京都観光総合調査(訪問地調査は各年4回実施) ・H23、H24はデータなし(同調査における訪問地の選択肢になし)
			京都市に訪れた観光客のうち、「山科周辺」を訪問したと回答した観光客の割合【%】	—	—	7.3	3.4	2.7	2.2	
			京都観光1日乗車券【山科・醍醐拡大版】販売枚数【枚】	461	489	785	796	1,256	1,371	
			歴史・文化資源等を巡るまち歩き事業の開催件数【件】	13	12	26	23	19	26	
			市設置の観光案内板の新規設置数【個】	1	1	1	3	6	7	
		③観光基盤の整備	飲食店数【事業所】	—	512	—	530	—	—	数値は2年ごとに把握 (経済センサス)
			旅館・ホテル施設数【施設】	1	1	1	1	1	1	京都府旅館ホテル生活衛生同業組合への登録数
			旅館・ホテル定員数【人】	200	200	200	200	200	200	京都府旅館ホテル生活衛生同業組合への登録数
2	伝統産業・農業を守る	①伝統産業の活性化と観光活用	清水焼の郷まつり来場者延べ数【人】	55,000	90,000	65,000	92,000	85,000	68,000	H28年度分は H30年2月公表予定 H28年度分は H30年2月公表予定 H28年度分は H30年2月公表予定 H28年度分は H30年2月公表予定 データなし
		②農地の保全と観光農業の展開	野菜の年間収穫量【t】	2,293	2,296	2,296	2,300	2,297	—	
			野菜の年間販売数量【t】	1,620	1,621	1,621	1,624	1,624	—	
			耕地面積【ha】	166.6	164.5	162.9	160.6	158.4	—	
			勧修寺観光農園来園者数【人】	15,093	14,075	12,568	14,378	14,725	13,263	
		③伝統産業・農業の担い手支援	農家戸数【戸】	471	468	466	464	464	—	
			農業従事者の平均年齢【歳】	—	—	—	—	—	—	

2 区民の実感(平成28年度区民アンケート)

番号	設問	そう思う	どちらか という そう思う	どちらとも いえない	どちらか という そう思わない	そう思わない	無回答	備考
5	山科区では、近年、京焼・清水焼等の伝統産業の魅力が増し、後継者や担い手の育成が進んでいる。	2.8% (27)	14.6% (142)	41.4% (402)	14.8% (144)	9.5% (92)	16.9% (164)	
6	山科区では、農産物の地産地消や食育の取組が進んでおり、農業や山科産農産物を身近に感じることができる。	9.3% (90)	27.2% (264)	29.1% (283)	18.8% (183)	9.9% (96)	5.7% (55)	
7	山科区では、いろいろなひとが、山科のまちに親しみ、まちと暮らしを十分に楽しんでいる。	8.0% (78)	30.1% (292)	37.1% (360)	11.3% (110)	8.2% (80)	5.3% (51)	
8	山科区では、歴史や行事、自然、伝統産業などの観光資源が有効に活用されている。	6.4% (62)	27.3% (265)	34.9% (339)	16.8% (163)	7.9% (77)	6.7% (65)	
9	山科区では、NPOやボランティア、大学などが連携し、観光客をもてなす体制が整えられている。	2.7% (26)	15.2% (148)	37.3% (362)	19.9% (193)	14.1% (137)	10.8% (105)	



基本施策 ②ー2	まちの魅力・観光を磨く (文化・スポーツ)	山科のまちの魅力資源を磨き高めて、区内外への総合的な発信を図っていきます。
----------	--------------------------	---------------------------------------

1 客観指標

番号	20の基本方針	50の取組	指標名【単位】	年度推移 (H28は算出可能なもののみ)						備考 (出典等)
				23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
1	文化・学びを豊かにする	①わがまち山科を知る機会の充実	【再掲】歴史・文化資源等を巡るまち歩き事業の開催件数【件】	13	12	26	23	19	26	民間団体(2団体)及び“ふれあい”山科実行委員会主催分の合計
		②生涯学習活動の展開	アスニー山科主催事業延べ受講者数【人】	24,376	23,922	23,975	25,056	25,131	26,102	
			山科図書館の入館者数【人】	217,464	215,730	210,736	220,591	229,911	228,793	
		③文化・芸術活動の振興	東部文化会館の利用者数【人】	57,346	68,603	58,999	59,603	53,827	59,917	
2	遊び・スポーツを楽しむ	①区民スポーツの振興	市営スポーツ施設(東野公園, 山科地域体育館, 勧修寺公園)の利用件数【件】	8,286	8,474	8,683	8,896	8,551	8,775	
			体育振興会主催のスポーツ大会(区民歩こう会などのイベントを含む)の参加者数【人】	1,442	1,410	1,220	1,238	1,370	1,927	
		②スポーツ・レクリエーションのリーダー養成	京都市スポーツ推進指導員数【人】	47	49	49	49	48	49	
			京都市スポーツ推進指導員充足率【%】	100	100	100	100	100	100	

2 区民の実感(平成28年度区民アンケート)

番号	設問	そう思う	どちらか というと そう思う	どちらとも いえない	どちらか というと そう思わない	そう思わない	無回答	備考
11	山科区では、気軽に文化・芸術活動を行ったり鑑賞したりすることができる。	4.8% (47)	15.2% (148)	33.4% (324)	21.3% (207)	14.0% (136)	11.2% (109)	
12	山科区は、スポーツを楽しむ機会が充実している。	2.6% (25)	17.5% (170)	33.1% (321)	21.7% (211)	13.5% (131)	11.6% (113)	
13	山科区は、幅広い世代が気軽に学ぶことができる機会や施設が充実している。	2.1% (20)	12.3% (119)	37.5% (364)	21.6% (210)	13.9% (135)	12.7% (123)	

基本施策 ③	交通・都市基盤を強化する	道路・交通環境の利便性と快適性を向上させながら、災害に強く、都市的環境と住環境の調和したまちをつくっていきます。
--------	--------------	--

1 客観指標

番号	20の基本方針	50の取組	指標名【単位】	年度推移 (H28は算出可能なもののみ)						備考 (出典等)
				23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
1	(1)道路を快適にする	①幹線道路網の交通対策	稲荷山トンネル利用台数(1日平均)【台】	4,600	5,600	6,500	6,700	7,200	7,500	道路交通センサス調査 (5年毎に実施) H27以前はデータなし H28年度分は H30年4月公表予定 データなし 数値は各年1月～12月の実績 数値は各年1月～12月の実績
			自動車類の交通量(路線人:一般国道1号, 観測地点:山科区音羽野田町, 24時間(平日))【台】	55,067 (H22の調査結果)	—	—	—	—	51,362 (H27の調査結果)	
		②安全で快適な道路空間の整備	カーブミラー設置個数【個】	—	—	—	—	—	1,086	
			歩道の整備距離【m】	42,324.6	42,350.4	42,482.8	42,391.5	42,466.5	—	
		③山科を楽しめる歩行者ネットワークの整備	歩道のバリアフリー化率【%】	—	—	—	—	—	—	
		④交通安全対策の強化	交通事故発生件数【件】	911	673	658	576	472	383	
			交通事故死者数【人】	2	1	4	1	3	2	
2	(2)交通環境を便利にする	①公共交通ネットワークの充実	区内鉄道駅の乗降客数(1日平均)【人】	115,843	115,363	118,952	119,827	123,081	—	H28年度分は H30年4月公表予定 H28年度分は H30年4月公表予定 定期利用を含む。 京阪電車の乗車券等を購入すると駐車料金が割引になるサービスを利用した台数
			・区内地下鉄駅の乗降客数(1日平均)【人】	79,396	79,995	80,114	82,092	84,232	85,959	
			地下鉄御陵駅の乗降客数(1日平均)【人】	7,924	7,818	7,782	8,093	8,194	8,146	
			地下鉄山科駅の乗降客数(1日平均)【人】	40,701	41,028	40,887	41,514	42,737	43,490	
			地下鉄東野駅の乗降客数(1日平均)【人】	10,360	10,392	10,305	10,680	10,810	11,169	
			地下鉄柳辻駅の乗降客数(1日平均)【人】	14,117	14,413	14,614	15,066	15,622	16,151	
			地下鉄小野駅の乗降客数(1日平均)【人】	6,294	6,344	6,526	6,739	6,869	7,003	
			・JR山科駅の乗降客数(1日平均)【人】	31,672	32,129	33,227	32,798	33,912	—	
			・京阪山科駅の乗降客数(1日平均)【人】	4,775	3,239	5,611	4,937	4,937	—	
		②パークアンドライド／サイクルライドの促進	市営自転車駐車場(東野駅, 御陵駅南・北, 柳辻駅, 小野駅)の利用台数【台】	297,684	288,550	275,228	294,012	283,088	288,924	
			放置自転車の撤去台数【台】	1,748	1,719	1,638	1,067	642	643	
		浜大津駅駐車場(明日都浜大津公共駐車場, 浜大津公共駐車場)での京阪電車と連携したパークアンドライド利用台数【台】	10,951	10,974	10,156	9,997	8,838	7,732		
3	(3)都市環境を充実させる	①災害に強い都市構造の形成	床下浸水発生件数【件】	0	0	167	1	0	0	JR山科駅及び京阪山科駅については、H28年度分はH30年4月公表予定 ・全市の受入量 (山科区のみ)のデータなし ・H23, H24, H25はデータなし
			東部土木事務所における町内会等への土のう袋提供件数【件】	470	465	540	1,990	353	511	
		②魅力ある拠点づくり	【再掲】区内鉄道駅の乗客数(1日平均)【人】	115,843	115,363	118,952	119,827	123,081	—	
		③良好な景観の保全と創出	違法な屋外広告物の件数【件】	—	—	—	(12,794)	(7,468)	(4,062)	

2 区民の実感(平成28年度区民アンケート)

番号	設問	そう思う	どちらか という そう思う	どちらとも いえない	どちらか という そう思わない	そう思わない	無回答	備考
14	山科区では、違法駐車や放置自転車が少なく、交通マナーがきちっと守られている。	3.8% (37)	20.3% (197)	20.8% (202)	23.8% (231)	24.4% (237)	6.9% (67)	
15	山科区は、歩道や水辺の空間など、まちの魅力を歩いて味わうことができる環境が整っている。	7.6% (74)	27.4% (266)	28.8% (280)	16.4% (159)	11.5% (112)	8.2% (80)	
16	山科区は、バス・地下鉄などの公共交通機関が整い、自家用車に頼らない移動が便利である。	19.4% (188)	25.0% (243)	16.5% (160)	17.2% (167)	15.6% (151)	6.4% (62)	
17	山科区では、大雨時にも安心できる治水対策が進んでいる。	5.4% (52)	20.6% (200)	35.6% (346)	16.1% (156)	9.4% (91)	13.0% (126)	
18	山科区は、個性的なまちなみや景観が守られ、美しいまちである。	3.6% (35)	21.6% (210)	36.3% (352)	18.0% (175)	10.8% (105)	9.7% (94)	

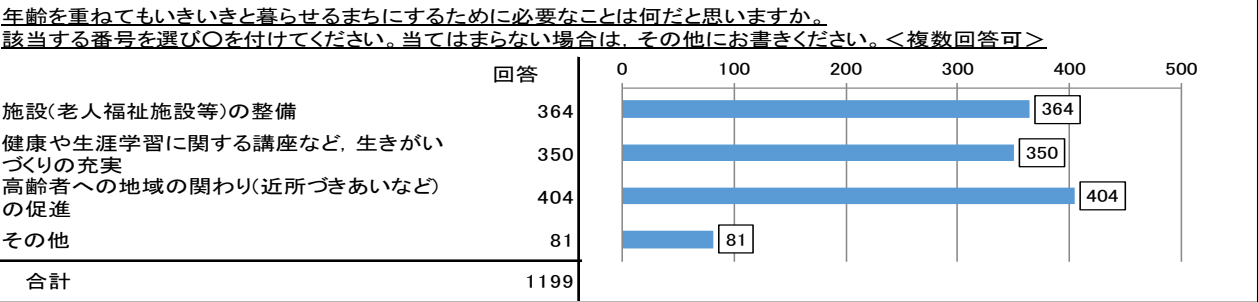
基本施策 ④ー2	保健・福祉・子育て支援 （障害・高齢・健康・人権）	だれもがバリアのない気持ちの良いまちで、自ら築くワーク・ライフ・バランスのもとに、いきいきと暮らせる地域社会をつくっていきます。
----------	------------------------------	--

1 客観指標

番号	20の基本方針	50の取組	指標名【単位】	年度推移 (H28は算出可能なもののみ)						備考 (出典等)
				23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
1	障害のあるひとの社会生活を応援する	①障害のあるひととその家族への生活支援の充実	日中活動系障害福祉サービス利用者数【人】	542	663	695	743	747	751	東部圏域（山科、醍醐、東山）での相談件数 障害者優先調達推進法（H24年公布）以前のデータなし
			障害者地域生活支援センター（東部圏域）相談件数【人】	14,951	16,152	19,705	25,782	34,497	34,420	
		②障害のあるひとの社会参加を守る環境づくりの推進	【再掲】日中活動系障害福祉サービス利用者数【人】	542	663	695	743	747	751	
			障害者就労施設等への調達件数【件】	－	2	10	13	16	15	
			障害者就労施設等への調達金額【円】	－	19,350	468,591	461,008	602,700	530,694	
2	高齢期の暮らしの安心と生きがいをつくる	①高齢期の活動拡大の応援	山科老人福祉センター利用者数【人】	29,099	28,307	28,033	28,808	28,343	28,022	
			山科中央老人福祉センター利用者数【人】	40,349	42,934	43,450	43,667	43,579	47,509	
			知恵シルバーセンター紹介者数【人】	－	239	321	366	423	553	
		②高齢期の生活と家族支援の充実	要支援認定者数【人】	1,637	1,853	2,057	2,214	2,267	2,294	
			認知症サポーター養成講座開催回数【回】	14	14	16	30	28	29	
			認知症サポーター養成講座参加者数【人】	467	522	476	987	862	1,134	
3	区民の健康をつくり、守る	①健（検）診の実施と健康教育・相談の充実	【再掲】1歳6箇月児健康診査受診率【％】	94.3	95.3	95.6	94.7	97	97	各年10月1日現在の数値 各年10月1日現在の数値 京都市AEDマップ（H27年度以前はデータなし） H27の会議は京都薬科大学で実施（それ以外は東部文化会館で実施） H23年度はデータなし 国の基準では、1日利用者の平均が3,000人以上の駅をバリアフリー化の対象としている。 国の基準では、1日利用者の平均が3,000人以上の駅をバリアフリー化の対象としている。
			保健センターにおける健康診断診査延人員	4,102	3,959	2,939	3,792	3,745	4,439	
			キャット・ハンズと歩く健康ウォーキング参加者数【人】	－	－	96	135	140	97	
		②地域医療体制の充実	病院数【施設】	7	－	7	7	7	7	
			一般診療所数【施設】	115	111	109	108	110	105	
			AED設置箇所数【箇所】	－	－	－	－	－	145	
4	みんなにやさしいまちにする	①人権文化が息づくまちづくり	人権啓発イベント（12月人権月間）参加者数【人】	360	355	280	550	137	315	
		②男女共同参画社会づくりの推進	ワーク・ライフ・バランスの取組が認証基準点（130点）以上の企業の数【企業】	－	81	114	154	181	225	
		③ユニバーサルデザインの普及、推進	公共施設における磁気誘導ループの設置施設数【施設】	2	2	2	2	2	3	
			駅のバリアフリー化状況（段差が解消されている駅数）【駅】	8	8	8	8	8	8	
			駅のバリアフリー化状況（車いすトイレ設置駅数）【駅】	7	7	7	7	7	7	

2 区民の実感（平成28年度区民アンケート）

番号	設問	そう思う	どちらか という そう思う	どちらとも いえない	どちらか という そう思わない	そう思わない	無回答	備考
25	山科区では、障害のある人、また、その家族を支える生活支援が充実している。	4.0% (39)	16.7% (162)	41.7% (405)	13.0% (126)	7.5% (73)	17.1% (166)	
26	山科区では、障害のある人の社会参加を守る環境づくりが進んでいる。	2.7% (26)	15.3% (149)	42.8% (416)	11.8% (115)	8.8% (85)	18.5% (180)	
27	山科区では、利用しやすく、相談しやすい医療体制が充実している。	6.0% (58)	25.4% (247)	34.8% (338)	15.7% (152)	9.5% (92)	8.7% (84)	
28	山科区では、普段の生活の中で人権を大切にし、尊重し合う習慣が根付いている。	2.0% (19)	12.8% (124)	43.5% (422)	15.4% (150)	11.2% (109)	15.1% (147)	
29	山科区では、高齢者や、その家族を支えるサービスを行う施設が充実している。	6.1% (59)	26.6% (258)	34.1% (331)	13.1% (127)	8.2% (80)	11.9% (116)	
30	山科区では、高齢者の地域活動への参加や、それに対する支援が充実している。	6.4% (62)	24.7% (240)	39.3% (382)	10.6% (103)	6.7% (65)	12.3% (119)	



基本施策 ⑤	地域のつながりを強める	さまざまな地域のつながりを強め、自治力・福祉力のある元気な山科区のまちづくりを進めていきます。
--------	-------------	---

1 客観指標

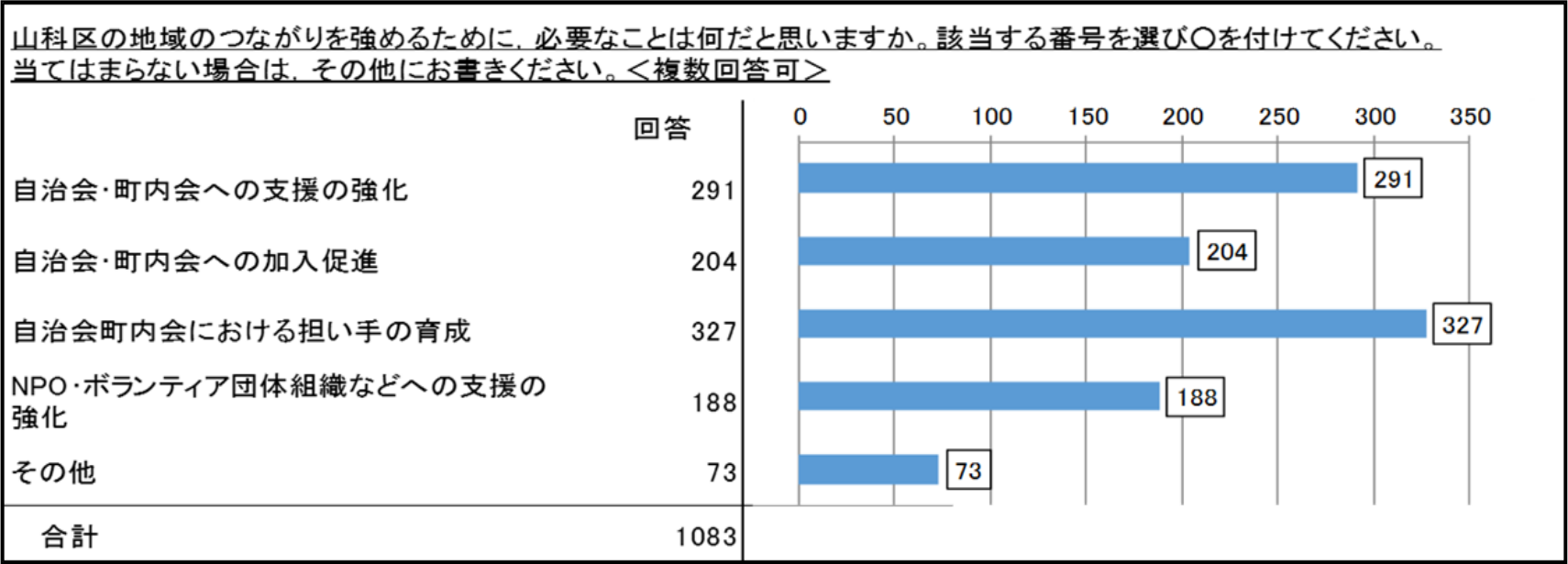
番号	20の基本方針	50の取組	指標名【単位】	年度推移 (H28は算出可能なもののみ)						備考 (出典等)
				23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
1	自治の仕組みを強化する	①地域コミュニティによる自治活動の展開	自治会加入率【％】	－	70	69	68	68	68	H23はデータなし
2	市民活動を活発にする	①NPO・ボランティア活動等の展開支援	NPO法人数(事務所所在地が区内の法人)【法人】	48	47	45	48	48	51	
			区ボランティアセンター相談件数【件】	32	68	31	45	74	115	
			山科“きずな”支援事業の採択件数【件】	－	20	39	42	36	35	
			やましなGOGOカフェの参加者数【人】	－	－	－	199	242	140	
		②大学・地域・行政の連携強化	区役所が行う区内大学との連携事業件数【件】	－	－	－	6	9	17	
3	地域ぐるみで暮らしの安心を守る	①地域の福祉力の強化	社会福祉協議会の賛助会費額【円】	14,108,040	14,003,250	14,206,220	13,440,250	13,225,400	13,037,900	
			フリースペースの設置箇所数【箇所】	－	3	3	10	11	13	
			フリースペースの利用者数【人】	－	554	2,618	2,946	4,223	4,924	
		②地域防犯体制の強化と生活安全対策の充実	刑法犯認知件数【件】	2,091	1,691	1,605	1,413	1,234	869	数値は各年1月～12月の実績
		③地域防災・危機管理体制の強化	火災発生件数【件】	11	22	20	17	11	21	数値は各年1月～12月の実績
			消防団員数【人】	228	234	232	235	243	254	
			区総合防災訓練参加者数【人】	450	320	450	500	2,139	330	H27年度は京都市総合防災訓練として実施
4	区役所をはじめ、行政機関を生活の身近にする	①協働まちづくり推進の体制強化	山科“きずな”支援事業の申請件数【件】	－	44	46	49	40	41	
			【再掲】やましなGOGOカフェの参加者数【人】	－	－	－	199	242	140	
		②行政サービスの利便性向上	区役所ホームページアクセス件数【件】	179,418	286,909	303,491	294,165	306,867	286,291	H28年度は、組織改正により再編された所属(旧衛生課等)を除くアクセス件数

2 区民の実感(平成28年度区民アンケート)

番号	設問	そう思う	どちらか というと そう思う	どちらとも いえない	どちらか というと そう思わない	そう思わない	無回答	備考
32	山科区では、町内会や自治会等の地域活動が活発である。	15.0% (146)	36.6% (355)	27.3% (265)	7.3% (71)	3.3% (32)	10.5% (102)	
33	山科区では、町内会や自治会等の地域の主体的な活動と、それに対する行政の支援とがうまくかみあっている。	5.5% (53)	23.3% (226)	38.3% (372)	9.9% (96)	5.7% (55)	17.4% (169)	
34	山科区では、NPOやボランティア組織など、多様な担い手が活発に活動している。	3.2% (31)	15.1% (147)	38.2% (371)	14.0% (136)	6.5% (63)	23.0% (223)	
35	山科区では、大学の市民向けの講座や地域との交流が行われるなど、大学が身近に感じられる。	3.6% (35)	13.3% (129)	27.7% (269)	21.3% (207)	15.8% (153)	18.3% (178)	
36	山科区は、犯罪や事故が少なく、安心して暮らせるまちである。	3.4% (33)	16.4% (159)	25.1% (244)	22.3% (217)	24.0% (233)	8.8% (85)	
37	山科区では、平常時から、地域ぐるみで暮らしの安心を守る仕組みが充実している。	1.8% (17)	16.2% (157)	37.1% (360)	18.3% (178)	11.9% (116)	14.7% (143)	
38	山科区では、防災訓練や連絡網の整備など、災害に備える取組が充実している。	4.3% (42)	25.5% (248)	33.6% (326)	16.8% (163)	7.2% (70)	12.6% (122)	
39	山科区では、災害発生時に、地域ぐるみで支えあう仕組みが充実している。	2.4% (23)	19.6% (190)	35.1% (341)	18.2% (177)	9.9% (96)	14.8% (144)	
40	山科区では、市や区の施策や事業等について、企画段階から参画する機会が十分にある。	1.5% (15)	7.0% (68)	35.8% (348)	18.0% (175)	13.2% (128)	24.4% (237)	
41	山科区役所では、便利で、区民の立場に立った円滑な行政サービスが提供されている。	5.7% (55)	21.1% (205)	32.7% (318)	14.8% (144)	9.6% (93)	16.1% (156)	

基本施策 ⑤	地域のつながりを強める	さまざまな地域のつながりを強め、自治力・福祉力のある元気な山科区のまちづくりを進めていきます。
--------	-------------	---

2 区民の実感(平成28年度区民アンケート)



平成 28 年度 第 1 回山科区民まちづくり会議 グループ別討議まとめ

【Ⅰ 環境を守り継ぐ】

1 「第 2 期山科区基本計画」の進ちょく評価方法の見直しについて

(1) 区民アンケート（案）について

- 環境分野は、学区ごとの差が大きいと考えられるため、学区ごとの意見を集計することが必要。学区ごとの意見が分かれば、次年度からの取組に活かすことができるのではないかな。
- 環境分野についても、追加質問の欄を設けて、多様な意見を聞けるようにしてはどうか。
- 回答率 3 割では実感が把握し切れないのではないかな。対象者に郵送するだけでなく、直接渡してできるだけ回答してもらうべきではないかな。

(2) 客観指標（案）について

- 「ごみの排出量」は分かりやすい指標でよいと思う。
- 公園愛護協力会の清掃回数では、区民の自主的な公園清掃が数値に反映されないため指標として問題があるのではないかな。
- てんぷら油の回収量に、乾電池の回収等様々な指標を加えて、ごみの発生抑制について総合的に判断するべきではないかな。
- 環境美化の取組について、「2 万人まち美化作戦」の参加人数や、「エコまちステーション」で配布している清掃用ごみ袋の配布枚数」を指標にしてはどうか。
- 環境学習の分野については、「小学校、中学校の環境学習の時間数」を指標にしてはどうか。
- 地球温暖化対策の推進の分野については、「自動車保有台数」ではなく、「敬老乗車証の申請件数」にしてはどうか。

2 「第 2 期山科区基本計画」の実現に向けた課題及び改善点について

- 山科では、ごみの分別は進んでおり、まちもきれいである。一方で、CO2 排出量の削減は進んでいないように感じる。
- 山科には公共交通機関の利便性向上という大きな課題があり、車の交通量を抑制するのは難しい。環境対策の前に、交通問題を解決しなければならないのではないかな。

【Ⅱ まちの魅力・観光を磨く】

1 「第2期山科区基本計画」の進ちょく評価方法の見直しについて

(1) 区民アンケート（案）について

《アンケート（案）全体について》

- 大学生は住民票を移していない人が多く、アンケートの対象から外れてしまう。別途、大学生に対してアンケートを行ってはどうか。

《各設問について》

- 【問5】京都市全体の伝統産業についての質問と捉えられる場合があるので、山科の伝統産業品の具体例（清水焼、仏具等）を記載しておいた方がよいのではないか。
- 【問6】山科の農産物の具体例（山科なす、とうがらし等）を記載しておいた方がよいのではないか。
- 【問11～問13】利用している人や、関心がある人しか答えることができないのではないか。どのような施設等があるのかわからない人、施設等を利用する意思がない人は回答が難しい。「分からない」の選択肢を設けるなど、問い方を工夫するべきではないか。

(2) 客観指標（案）について

- 観光基盤の整備の分野について、「食事施設の数」や「宿泊施設の数」を指標にしてはどうか。
- 「各観光施設におけるタクシーでの来場者数」などを指標にしてはどうか。
- 農業分野は、「生産量」に加えて、「売上高」や「農地面積」も指標になるのではないか。
- 担い手分野については、「農業従事者数」や「家族の年齢」なども指標にすべきではないか。
- まち歩き事業は、安全面などから、1回の事業で参加できる人数が決まっているため、「参加者数」ではなく、「実施回数」の方が指標としてふさわしいのではないか。
- 文化芸術活動の振興分野について、「区内で行われているお祭りの来場者数」や「神社仏閣への拝観者数」を指標にすべきではないか。

【Ⅲ 交通・都市基盤を強化する】

1 「第2期山科区基本計画」の進ちょく評価方法の見直しについて

(1) 区民アンケート（案）について

《アンケート（案）全体について》

- 市民の生の意見を聞いていくという評価方法は良い方向性であり評価できる。
- 項目が多いので、減らす方向で修正してはどうか。

《各設問について》

- 【問 15・18】計画には、交通安全の項目があるが、アンケートにはない。問 15 と問 18 が似ているので、これを統合して「交通安全」を入れてはどうか。（統合したとしても、「景観」のキーワードが抜けないう注意が必要）

(2) 客観指標（案）について

- 幹線道路の交通対策の分野について、市で5年に1回行う「交通量調査」のデータを指標として使用できるのではないかな。
- 歩行者ネットワークの整備の分野については、「歩道の整備状況」だけではなく、歩道がどのようにつながっているかの方が指標としてふさわしい。「バリアフリーになっている歩道の整備率」であれば意味があるのではないかな。
- 公共交通ネットワークの充実の分野について、「地下鉄の乗降客数」だけではなく、地下鉄から遠い地域と、山科がどうつながっているかの指標が必要ではないかな。
- 災害に強い都市構造の分野については、水害について指標が必要ではないかな。「区内の床下浸水数」や「町内で水害対策をしている町内会の数（土木事務所に土のう袋をもらいに来ている数）」が指標と考えられるのではないかな。
- 良好な景観の保全と創出の分野については、「違反数」は公表できないにしても、「違反数の増減」は指標にできるのではないかな。

2 「第2期山科区基本計画」の実現に向けた課題及び改善点について

- 基本施策Ⅲを推進していくには予算が必要である。
- 自転車マナーの向上は、区内で熱心に取り組まれている。
- 「山科区公共交通利用促進協議会」にもっと多様なメンバーを入れ、山科全域について議論していくべきではないかな。
- 地下鉄の駅から遠いエリアへの交通対策を進めるべきではないかな。

【Ⅳ－① 保健・福祉・子育て支援を充実させる】

1 「第2期山科区基本計画」の進ちょく評価方法の見直しについて

(1) 区民アンケート（案）について

《アンケート（案）全体について》

- 設問の文言が当たり前すぎて漠然としていることから、「どちらとも言えない」という回答に集中することが考えられる。もう少し具体的な設問にすべきではないか。
- 学校教育の充実など、区基本計画とアンケート、客観指標が合致していない分野がある。計画に沿った形での設問が必要ではないか。
- 知らない人、分からない人が、そう思わないに○を付けることを防ぐために、「知らない」・「分からない」が選択肢にあった方がよいのではないか。

《各設問について》

- 【問20・問22】両者は内容が被っており、どちらか1つのみで良いのではないか。問20を残すのであれば、未就学児対象であることを明記するべきではないか。

(2) 客観指標（案）について

- 高齢期の活動拡大の分野について、「老人クラブの会員数」が挙げられているが、そもそも、区内に老人クラブの対象者が何人いるのかも併せて押さえていく必要がある。また、フリースペースは、「設置数」だけではなく「利用者数」も指標にすべきではないか。
- 放課後児童対策の充実分野について、「児童館等の登録者数」は、対象者の人数も押さえておく必要があるのではないか。
- 青少年の健全育成の分野について、「青少年が行った地域ボランティアの数」を指標にするべきではないか。

2 「第2期山科区基本計画」の実現に向けた課題及び改善点について

- 現在行われている取組だけでは、計画の推進に限界がある。「子ども食堂」など、問題解決のために、新たな仕組みを作る必要があるのではないか。
- 子育て支援は、いろいろな種類の支援を選べる方が良い。また、その情報を必要な人に提供することが大切ではないか。

【Ⅳ－② 保健・福祉・子育て支援を充実させる】

1 「第2期山科区基本計画」の進ちょく評価方法の見直しについて

(1) 区民アンケート(案)について

- 計画策定当時から、社会のニーズが変化してきており、計画の取組内容そのものが古くなっている。その遅れているものの実感を聞いても正しく現状が把握できるか疑問である。
- 福祉分野は、サービスを受けている当事者でないと、充実度は分からないのではないか。
- 設問の中に、福祉サービスの具体例を示してはどうか。
- 追加質問については、多様な意見を拾うため、自由記述欄の方がよいのではないか。
- 調査対象は、山科の実態を踏まえた年齢構成にするべきではないか。

(2) 客観指標(案)について

- 防災分野が福祉分野と密接に関わっているなど、地域において、ニーズや課題は複雑化している。行政分野で現状と課題を捉えていくことに限界があるのではないか。
- 子ども食堂など、公が実施主体ではない民間が行っている取組が増えている。計画の進捗状況において、民間独自の取組についてもフォローしていくべきではないか。

2 「第2期山科区基本計画」の実現に向けた課題及び改善点について

- 施策や事業に積極的につながれる人とそうでない人との間で差が生じている。つながることができない人たちへのフォローが必要ではないか。

【Ⅴ 地域のつながりを強める】

1 「第2期山科区基本計画」の進ちょく評価方法の見直しについて

(1) 区民アンケート（案）について

《アンケート（案）全体について》

- 平易な言葉を使用する、イメージしやすいように、取組の事例を示すなど回答する区民の立場に立った設問の工夫が必要ではないか。
- 回答率3割では実感が把握し切れない。アンケート実施前に、若者世代を中心に、アンケートを実施することについて啓発を行うべきではないか。
- 回答の参考になる基本計画がホームページでしか見ることができないことは問題である。区役所に取りに来ればもらえるような1文を加えるべきではないか。

《各設問について》

- 【問 24】「非行に走る」という文言は、山科のイメージを下げるため問題である。「非行防止の取組が充実している」などに変えるべきではないか。
- 【問 37】「困った時に相談できる人がいる仕組みが充実している」という分かりやすい表現に変えるべきではないか。
- 【問 38】防災訓練のほかに、日常の見守りや連絡網などの例示を記載すべきではないか。
- 【問 42～44】市民しんぶん以外に、行政情報をどのように収集しているかどうかの設問も設けるべきではないか。
- 【自由記述欄】行政に望むことだけでなく、一緒にやりたいことなども書けるようにするべきではないか。

(2) 客観指標（案）について

- 地域の福祉力の強化の分野について、社会福祉協議会の賛助会員数を指標に加えるべきではないか。
- 地域防犯体制の強化と生活安全対策の充実の分野について、刑法犯認知件数は、マイナスイメージがある。それに代えて、あるいは、それに加えて地域で行っているパトロールの回数を指標に加えるべきではないか。

2 「第2期山科区基本計画」の実現に向けた課題及び改善点について

- 担い手不足が課題である。学区によっては、20代・30代の親を、子どもが中学校卒業後も地域につなぎとめておく循環ができているところもある。そのようなすぐれた手法を他の学区に広げていくような機会を設けるべきではないか。
- 地域の担い手を育成するまでに、まずは、多世代が交流できるような場を活性化し、出会って話すことができる機会を作ることが必要ではないか。

平成 28 年度 第 2 回山科区民まちづくり会議 グループ別討議まとめ

【Ⅰ 環境を守り継ぐ】

《アンケート結果や客観指標について》

- 全体的に好評価の数値が高いが、普段、美化活動などをしていても、山科のまちがきれいになってきているのを感じる。
- 環境分野については、少しでもきれいと思うと、「そう思う」と答える傾向があると考えられるため、「どちらとも言えない」の回答は、否定的な回答と捉えてもよいのではないかな。
- 環境学習についての実感が低い。環境学習は子供向けというイメージがあるが、大人でも、機会があれば、参加したいと思っている区民は多くいるのではないかな。区民まつりなど、人が多く集まる機会を利用してはどうか。

《同分野の現状と課題》

- 今年度の途中から、ごみの収集時間が早くなった。自然とまちがきれいになったと感じている。
- 普段美化活動をしていて感じることは、川や水路にタバコの吸い殻が多く落ちていること。山科は交通の要所であることから、区外のドライバーなどが捨てていくことも多い。環境問題の改善のためには、市民のマナーの問題も同時に考えていく必要がある。

【Ⅱ まちの魅力・観光を磨く】

《アンケート結果や客観指標について》

- 設問 5 については、「伝統産業の後継者」という問いかけは、後継者問題の実情が一般の方に分かりにくいいため、「どちらとも言えない」が多くなるのではないかな。「伝統産業品を普段使いしているか？」という趣旨の質問がよいのではないかな。
- 設問 6 については、区内のスーパーなどで、日頃から地元の野菜が並んでいることが、高い実感につながっているのではないかな。
- 設問 9 について、実感が低いのは、各種団体へのアプローチ方法が十分伝わっておらず、活躍する意思があっても機会がない方がいるのではないかな。

《同分野の現状と課題》

- 山科は観光地が点在しており、これらを公共交通機関で回りきれないことが誘客のネックとなっている。
- 山科には、古い街道が多く存在することから、街道自身を観光資源としていくという認識が必要である。
- 街道を観光資源とするには、ある程度のハード面の整備（外国語併記がある案内標記の整備、街道ごとに色分けしたレンガ敷きの道への舗装）や、「紙芝居」や「動画」を使用した街道が持つストーリー性の発信を行うことが必要である。
- 観光客に山科で消費をしていただく必要があるため、山科疏水付近、将軍塚付近、山科川沿い等で、季節限定でもお茶屋さんなどの出店があれば面白い。

【Ⅲ 交通・都市基盤を強化する】

《アンケート結果や客観指標について》

- 交通事故発生件数が減ってきているが、景気が悪く車の台数が減っているのが原因ではないか。
- 放置自転車の撤去台数が減ってきているのは、交通対策協議会が行う啓発活動などの取組の成果が出てきている結果である。
- パークアンドライドの指標は増えているが、観光客が増えると住環境が乱されることもある。住民側のメリットも考えていく必要がある。

《同分野の現状と課題》

(道路)

- 道路整備、区画整理等都市計画が中途半端で終わっている部分が多い。グランドデザイン（全体的なプラン）を見直す必要がある。
- 稲荷山トンネルが無料になったらトンネル内（約4km）で渋滞する可能性があるのではないか。

(交通環境)

- 地下鉄が整備され、バスの本数が減り、地域ごとに利便性の格差ができています。例えば、音羽のような便利なところは住環境として人気が出ている。逆に不便になっているところもあり、問題である。これから高齢者が増えていくと、より大きな課題になってくる。
- 全て山科駅に集約するのではなく、山科駅へのアクセスが不便なところのことも考え、集約点を分散するようにしてほしい。いくつかの集約点に集まるネットワークの構築を望む。
- ハードの未整備部分を、見守り活動等、コミュニティの力（ソフト）でカバーしているのが山科の現状である。

【Ⅳ－① 保健・福祉・子育て支援を充実させる（福祉・高齢・障害分野）】

《アンケート結果や客観指標について》

- 他の基本施策に比べて、無回答や「どちらとも言えない」という回答が多い。これは、問が抽象的で具体性に欠いているからではないか。例えば「若者の活動の場」という表現。「活動」とは何か、「場」とは何かという具体例を示さないと答えにくいのではないか。
- ごみ収集の職員の対応がよくなったとの声をよく聞くが、そのような職員の対応を聞く設問を設けてもよいのではないか。

《同分野の現状と課題》

- 山科では、高齢者が行う登下校時の見守り活動などが積極的に行われており、その結果として、子どもと地域との関わりという分野の評価が高かったのではないか。
- 高齢者の見守り活動などの分野においても、担い手不足が課題である。活動の継続性を担保するために、一人の中心人物に役割を集中させるのではなく、多くの担い手を育成し、複数人で役割を分担させる必要がある。
- 子どもに関わりがあるイベントをすると、どの世代からも喜ばれる。山科で世界中の人を集めた世界大会を開催してはどうか。

【Ⅳ－② 保健・福祉・子育て支援を充実させる】

《アンケート結果や客観指標について》

- 本分野（保育や高齢）の設問については、当事者や、周りにサービスの対象となる人がいないと状況がわからないのでアンケートに答えにくいのではないかな。
- 高齢者福祉の評価が高めなのは、回答者に高齢者が多いからではないかな。
- 区民アンケートで把握できない声を聞き取る努力が必要である。例えば、障害のある方や施設の利用者へ、「山科がいいまちになるにはどうしたいかな？」など、ポジティブな聞き方でアンケートやインタビューを行ってはどうか。

《同分野の現状と課題》

- 高齢者福祉は民間が経営していける制度となっているが、子育ては行政が関与しないと厳しいのではないかな。
- 区民に実感持ってもらうにはどうしたらいいかな。現場は、様々な施策や取組を「やってもやってもきりがないう」と感じている。例えば、児童館もほぼ全学区に設置され、保育所も数は充実してきているが評価されていない。犯罪件数の低下が治安の実感につながっていないように、実感してもらうのは難しい。実感を持ってもらうためには「見える化」が必要である。
- 「見える化」へのアイデア
 - ・ 山科区が「子育てしやすいまち、山科」を打ち出す。
 - ・ 広場や公園のある大型の子育て支援施設「チャイルドセンター」を設置し、子育て支援だけではなく、ママ向けの就労支援など「働く」について学ぶ場所とする。

【Ⅴ 地域のつながりを強める】

《アンケート結果や客観指標について》

- 警察や区民が熱心に取り組んでいるが、安心・安全の項目の実感が低く意外である。取組が区民の実感向上につながるには時間がかかるのではないかな。
- なぜ“安心・安全ではない”と感じるのか。追跡調査を行い、区民に聞いてみたい。区民が求める“安心・安全”の求めるレベルが高すぎるのではないかな。

《同分野の現状と課題》

（安心・安全）

- 実感向上につなげていくために、学区等で行っている様々な取組をより PR する必要がある。交番だよりの積極的な活用や、市民しんぶん区版の1面を利用した安心・安全の一大 PR（その後、区版3月号1面に掲載）を展開してはどうか。また、各学区で自主的に行っている防災や防犯の取組についても、もっと区民に PR していく必要があるのではないかな。
- 実感の向上につなげていくためにも、現在行っている取組をしっかりと着実にやっていく必要がある。

（地域コミュニティ）

- 担い手不足と、担い手支援がどの学区でも課題である。大学生が新たな担い手にならないかな。
- 消防団加入については、積極的な PR が効果を発揮し、加入する若い人が増えてきている。

京都市山科区民まちづくり会議要綱

(目 的)

第1条 第2期山科区基本計画（以下「計画」という。）について、区民，地域団体，企業，事業者，大学及び行政等の「共汗・協働」により推進するとともに，山科ならではの地域力を活かした協働型のまちづくりを推進するため，専門的な見地及び区民の立場から幅広く意見を求めることを目的として，山科区民まちづくり会議（以下「まちづくり会議」という。）を開催する。

(内 容)

第2条 まちづくり会議で意見を求める内容は次のとおりとする。

- (1) 計画全体の進行管理に関すること。
- (2) 計画に掲げる取組の進ちょく評価に関すること。
- (3) 計画に掲げる取組の達成評価に関すること。
- (4) 区民提案・共汗型まちづくり支援事業の推進に関すること。
- (5) その他計画の推進に関すること。

(委 員)

第3条 まちづくり会議に参加する委員は，次に掲げる者のうちから，山科区長（以下「区長」という。）が依頼する。

- (1) 関係行政機関の職員
 - (2) 地域団体等から推薦を受けた者
 - (3) 学識経験のある者
 - (4) 前3号に掲げる者のほか，区長が適当と認める者
- 2 前項第3号の者のうちから依頼した委員は，学識委員として，専門的見地から意見を述べるものとする。

(任 期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし，補欠の委員の任期は，前任者の残任期間とする。

- 2 委員は再任されることができる。

(座長の指名等)

第5条 区長は，学識委員のうちから座長を，委員のうちから副座長を指名する。

- 2 座長は，まちづくり会議の進行をつかさどる。
- 3 座長に事故があるときは，副座長がその職務を代理する。

(招集等)

第6条 まちづくり会議は，区長が招集する。

- 2 区長は，必要があると認めるときは，委員以外の者に対して，意見の陳述，説明，その他必要な協力を求めることができる。

(部 会)

第7条 区長は、第2条各号に掲げる内容について、より具体的な意見を求めるため、部会を開催することができる。

2 部会に参加する委員は、区長が依頼する。

3 区長は、部会の部会長及び副部会長を指名する。

4 部会は区長が招集する。

5 部会長は、部会の進行をつかさどる。

6 部会長に事故あるときは、副部会長がその職務を代行する。

7 区長は、必要があると認めるときは、委員以外の者に対して、部会での意見の陳述、説明、その他必要な協力を求めることができる。

(委 任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、まちづくり会議に関し必要な事項は、区長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

(関係要綱の廃止)

2 山科区民まちづくり会議設置要綱（以下「旧要綱」という。）は、廃止する。

(経過措置)

3 この要綱の施行の際現に旧要綱に基づく山科区民まちづくり会議（以下「旧まちづくり会議」という。）の委員である者は、この要綱の施行の日（以下「施行日」という。）にまちづくり会議の委員として依頼されたものとみなす。この場合において、その依頼されたものとみなされる者の任期は、第4条第1項の規定にかかわらず、施行日における旧まちづくり会議の委員としての任期の残任期間とする。

4 この要綱の施行の際現に旧まちづくり会議の座長及び副座長である者は、施行日に第5条第1項の規定により区長に指名されたものとみなす。